

6 クビレヅタ養殖に関する研究— (I) クビレヅタの発生について

当真 武

本報告は昭和51年度「宮古西部地区漁業資源報告書、クビレヅタの養殖試験」のその後の実験結果の概要である。

方 法

宮古与那覇湾の久松地先において採集した藻体を1昼夜、約5~10°Cの冷蔵庫に保管し、それから1ℓビーカーに収容、エアレーションをし、12D~12Lで約3,000Luxの蛍光灯を照射した。実験は1977年10月~11月にかけて室温で実施した。

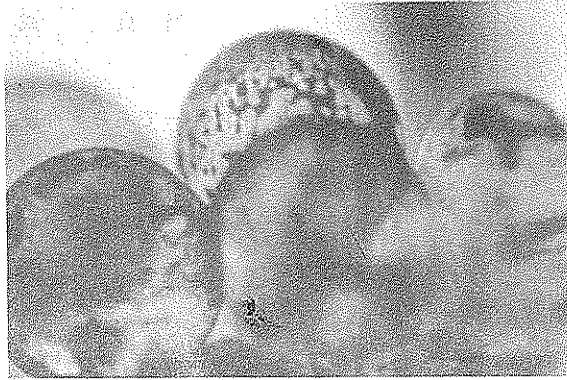
結 果

クビレヅタは成熟が始まると根状部を除いて藻体の全面に一様に分散していた色素体が移動濃縮する形で網目状を形成した(図1)。放出管(Papillae)は2~6mmに達した。今回は遊走子の放出は観察できなかったがひきつづき観察を続けていきたい。なお、与那覇湾産の本種を本場飼育池で流水培養中であり、池中での観察も継続中で、本種の養殖方法の検討を続けたい。

参 考 文 献

- 香村真徳(1962)琉球列島海藻知見(I)、藻類10巻1号
宮古西部地区漁業資源調査、昭和51年度沖水試事業報。

クビレッタの成熟藻体と放し管



①



④



②

③



①②③ 宮古久松産クビレッタの成熟藻体一葉部

④ 放出管 (Papillae)